

(様式第 10)

産医大発 160290号
平成 28年 10月 3日

厚生労働大臣

殿

学校法人 産業医科大学
開設者名 理事長 森山 寛 (印)

産業医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 - 1
氏 名	学校法人 産業医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

産業医科大学病院

3 所在の場所

〒807-8556 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1 - 1	電話(093) 603 - 1611
------------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1 神経内科 2 呼吸器内科 3 4 5 6 7		
8 9 10 11 12 13 14		
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科								有	・	無		
外科と組み合わせた診療科名												
1	心臓血管外科	2	形成外科	3		4		5		6		7
8		9		10		11		12		13		14
診療実績												

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科								有	・	無		
歯科と組み合わせた診療科名												
1	歯科・口腔外科	2		3		4		5		6		7
歯科の診療体制												

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	病理診断科	3		4		5						
6		7		8		9		10		11		12		13
14		15		16		17		18		19		20		21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40 床	床	床	床	638 床	678 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	402人	2.1人	404.1人	看護補助者	63人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	11人	0.4人	11.4人	理学療法士	15人	臨床検査技師	50人
薬 剤 師	42人	0人	42人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	27人	0人	27人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	739人	14.3人	753.3人	臨床工学士	13人	医療社会事業従事者	10人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	22人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯科技工士	1人	事務職員	73人
管理栄養士	5人	0.8人	5.8人	診療放射線技師	39人	その他の職員	12人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	22人	眼科専門医	6人
外科専門医	23人	耳鼻咽喉科専門医	8人
精神科専門医	5人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	6人
皮膚科専門医	5人	整形外科専門医	14人
泌尿器科専門医	7人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	8人
		合 計	150人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(佐多 竹良) 任命年月日 平成 26 年 4 月 1 日

<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会委員(平成26年4月1日～) ・医療安全管理部定例会議(平成26年4月1日～)
--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	557.7人	4.5人	562.2人
1日当たり平均外来患者数	1542.7人	65.7人	1608.4人
1日当たり平均調剤数			1223.2 剤
必要医師数			146.5人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			19人
必要(准)看護師数			336人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	268.44 m ²	鉄筋コン クリート	病床数	10床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 161.5 m ² [移動式の場合] 台数 7台		病床数	13床		
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床積 16.96 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	175.41m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、冷蔵庫、冷凍庫、他			
細菌検査室	66.41m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 自動細菌同定感受性検査装置、微生物検査機器、測定システム、他			
病理検査室	71.69m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) バーチャルスライド作成機、免疫染色装置密閉式、自動固定包埋装置、他			
病理解剖室	58.53m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 特殊解剖台、排水殺菌システム			
研 究 室	2233.3m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) 実験台、冷蔵庫、冷凍庫、パソコン、測定・分析装置、他			
講 義 室	1203.5m ²	鉄筋コン クリート	室数	10室	収容定員	1,122人
図 書 室	2,480m ²	鉄筋コン クリート	室数	1室	蔵書数	122,086冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	86.8 %	逆紹介率	58.5 %
算出 根拠	A：紹介患者の数	15,739 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	12,141 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,259 人	
	D：初診の患者の数	20,728 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注) (様式8) にて提出済

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況 (様式8) にて提出済

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	1人
硬膜外自家血注入療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん (エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん	2人
インターフェロン α 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫	0人
FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断 アルツハイマー病	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数	
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ペーチェット病		92	
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	特発性拡張型心筋症		25	
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症		3	
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症		0	
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血		27	
6	パーキンソン病	200	61	自己免疫性溶血性貧血		2	
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症		0	
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病		33	
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病		0	
10	シャルコー・マリー・トウス病	1	65	原発性免疫不全症候群		2	
11	重症筋無力症	83	66	IgA腎症		8	
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎		4	
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	76	68	黄色靱帯骨化症		8	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	10	69	後縦靱帯骨化症		64	
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症		19	
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症		23	
17	多系統萎縮症	22	72	下垂体性ADH分泌異常症		10	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	40	73	下垂体性TSH分泌亢進症		0	
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症		7	
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病		6	
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症		0	
22	もやもや病	28	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症		17	
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症		54	
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)		0	
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症		0	
26	HTLV-1関連脊髄症	4	81	先天性副腎皮質酵素欠損症		1	
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症		0	
28	全身性アミロイドーシス	8	83	アジソン病		0	
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス		60	
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎		32	
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症		5	
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症		0	
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症		5	
34	神経線維腫症	9	89	リンパ脈管筋腫症		1	
35	天疱瘡	24	90	網膜色素変性症		15	
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群		0	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	15	92	特発性門脈圧亢進症		0	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変		39	
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎		2	
40	高安動脈炎	22	95	自己免疫性肝炎		6	
41	巨細胞性動脈炎	3	96	クローン病		69	
42	結節性多発動脈炎	21	97	潰瘍性大腸炎		136	
43	顕微鏡的多発血管炎	32	98	好酸球性消化管疾患		1	
44	多発血管炎性肉芽腫症	19	99	慢性特発性偽性腸閉塞症		0	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症		0	
46	悪性関節リウマチ	72	101	腸管神経節細胞減少症		0	
47	パージャール病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群		0	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群		0	
49	全身性エリテマトーデス	313	104	コステロ症候群		0	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	92	105	チャージ症候群		0	
51	全身性強皮症	161	106	クリオピリン関連周期熱症候群		1	
52	混合性結合組織病	59	107	全身型若年性特発性関節炎		0	
53	シェーグレン症候群	27	108	TNF受容体関連周期性症候群		0	
54	成人スチル病	11	109	非典型性溶血性尿毒症症候群		0	
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群		0	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	0	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	6
122	脳表ヘモジリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治額回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	7
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球病	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプリング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	2
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	4

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・特定集中治療室管理料1(小児加算)
・歯科外来診療環境体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・歯科診療特別対応連携加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・特定機能病院入院基本料(精神病棟10対1)	・小児入院医療管理料2
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1)	・
・超急性期脳卒中加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・医師事務作業補助体制加算1(75対1補助体制加算)	・
・急性期看護補助体制加算25対1(看護補助者5割未満)	・
・看護職員夜間配置加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・
・病棟薬剤業務実施加算2	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算2	・
・精神疾患診療体制加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図
・高度難聴指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病合併症管理料	・補聴器適合検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料1	・コンタクトレンズ検査料1
・がん患者指導管理料2	・内服・点滴誘発試験
・がん患者指導管理料3	・CT透視下気管支鏡検査加算
・外来緩和ケア管理料	・画像診断管理加算2
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・糖尿病透析予防指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・院内トリアージ実施料	・冠動脈CT撮影加算
・外来放射線照射診療料	・心臓MRI撮影加算
・ニコチン依存管理料	・乳房MRI撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外来化学療法加算1
・薬剤管理指導料	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料1	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含)
・医療機器安全管理料2	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含)
・医療機器安全管理料(歯科)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含)
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算含)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・がん患者リハビリテーション料
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・遺伝カウンセリング加算	・認知療法・認知行動療法1
・時間内歩行試験及びシャルトウォーキングテスト	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料
・ヘッドアップティルト試験	・医療保護入院等診療料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・硬膜外自家血注入

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・透析水質確保加算2	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・膀胱水圧拡張術
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・歯科技工加算1及び2	・人工尿道括約筋植込・置換術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	・輸血管理料 I
・脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術	・輸血適正使用加算
・羊膜移植術	・自己生体組織接着剤作成術
・緑内障手術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・網膜再建術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型	・歯周組織再生誘導手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・広範囲顎骨支持型装置埋込手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・麻酔管理料(I)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術	・麻酔管理料(II)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)	・放射線治療専任加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・外来放射線治療加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む)	・高エネルギー放射線治療
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・1回線量増加加算
・植込型除細動器移植術又は植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下肝切除術	・定位放射線治療
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・画像誘導密封小線源治療加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・硬膜外自家血注入療法(平成28年4月)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1回程度/週
剖検の状況	剖検症例数 22 例 / 剖検率 8.2 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
選択的Nav1.3阻害薬の開発を目指した、電位依存性Naチャンネルの抑制機序解析	佐多 竹良	病院長 (麻酔科学)	1,110,554	補 委 日本学術振興会
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	田中 良哉	第1内科学	500,000	補 委 厚生労働省科学研究費
自己免疫疾患に関する調査研究	田中 良哉	第1内科学	700,000	補 委 厚生労働省科学研究費
特発性大腿骨頭壊死症の治療法確立と革新的予防法開発にむけた全国学際研究	田中 良哉	第1内科学	750,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
IgG4関連疾患の病因病態解明と新規治療法確立に関する研究	田中 良哉	第1内科学	1,200,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
免疫抑制剤の効果的な併用による難治性膠原病治療プロトコール作成のための研究	田中 良哉	第1内科学	1,500,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
関節リウマチの「ドラッグホリデー」と関節破壊「ゼロ」を目指す治療法の確立に関する研究	田中 良哉	第1内科学	10,500,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
治療にもかかわらず関節破壊が進行するRA患者の危険因子の検討	田中 良哉	第1内科学	1,300,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
SLEのゲノム研究とB細胞における疾患感受性遺伝子調節機構解析	田中 良哉	第1内科学	1,000,000	補 委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
関節リウマチにおけるDNAメチル化ダイナミクスとその分子基盤の解明	中野 和久	第1内科学	1,100,000	補 委 日本学術振興会
濾胞性ヘルパーT細胞の多様性と自己免疫病態への関与: SLE新規治療戦略の創出	中山田 真吾	第1内科学	1,100,000	補 委 日本学術振興会
膠原病リウマチ疾患の難治性病態に対するWntシグナル阻害による新規治療戦略の創出	齋藤 和義	第1内科学	1,598,406	補 委 日本学術振興会
主治医による就業支援指導・情報提供による治療と就業への効果に関する検証	齋藤 和義	第1内科学	1,122,840	補 委 労災疾病臨床研究 事業費補助金(厚生労働省)
ベーチェット病に関する調査研究	齋藤 和義	第1内科学	400,000	補 委 厚生労働省科学研究費
日本人の人工弁置換術後における抗血小板療法の有効性および安全性に関する臨床研究	津田 有輝	第2内科学	355,655	補 委 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
冠動脈ステント留置後の新生内膜形成に及ぼす多価不飽和脂肪酸の効果	荒木 優	第2内科学	2,696,956	補委 日本学術振興会
僧帽弁輪拡大による二次性左室基部収縮低下:弁形成術は左室基部収縮低下を改善させる	福田 祥大	第2内科学	998,795	補委 日本学術振興会
肝疾患における小胞体ストレスならびにそれに対する肝細胞の防御反応に関する検討	原田 大	第3内科学	680,433	補委 日本学術振興会
手技の容易化・安全化を実現する軟性内視鏡操作支援ロボットの開発	久米 恵一郎	第3内科学	1,165,616	補委 日本学術振興会
肺線維症診断における気管支肺胞洗浄液の電子顕微鏡下粉じん解析の有用性	城戸 貴志	呼吸器内科学	188,553	補委 日本学術振興会
特発性肺線維症におけるwnt/ β cateninの関与の解明	小田 桂士	呼吸器内科学	771,183	補委 日本学術振興会
特発性肺線維症合併肺癌の術後急性増悪におけるwnt/ β cateninの関与の解明	石本 裕士	呼吸器内科学	1,879,714	補委 日本学術振興会
気管支肺胞洗浄液を用いた肺リンパ腫・リンパ増殖性疾患の分子生物学的診断	城戸 貴志	呼吸器内科学	442,239	補委 日本学術振興会
NOS完全欠損マウスを用いたCOPD・喘息の病態と増悪におけるNOの役割の解明	矢寺 和博	呼吸器内科学	1,191,935	補委 日本学術振興会
神経変性疾患における病因蛋白質の選択的分解の促進による治療法の開発	足立 弘明	神経内科学	3,299,366	補委 日本学術振興会
体形比較課題による摂食障害の病態と治療的介入の検討	兒玉 直樹	神経内科学	415,444	補委 日本学術振興会
良性成人型家族性ミオクローヌスてんかんの診断基準の確立	足立 弘明	神経内科学	730,000	補委 厚生労働省科学研究費
視神経脊髄炎の再発に対するリツキシマブの有用性を検証する第Ⅱ/Ⅲ相多施設共同プラセボ対照無作為化試験	岡田 和将	神経内科学	500,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
BDNF,proBDNF血中動態に基づくうつ病再発予測	吉村 玲児	精神医学	1,810,033	補委 日本学術振興会
大うつ病性障害患者の予後改善のためのセカンドライン基準は何か?	阿竹 聖和	精神医学	1,292,050	補委 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
バイオマーカーに基づく無作為割付比較試験による混合性うつ病の治療アルゴリズム構築	吉村 玲児	精神医学	100,000	補委 日本学術振興会
脳由来栄養因子、NOX、サイトカイン解析大うつ病患者での血清BDNF、proBDNF、MMP-9濃度の検討	吉村 玲児	精神医学	1,105,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
うつ病患者の臨床評価と脳脊髄液サンプル収集	吉村 玲児	精神医学	1,300,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
うつ病患者の復職成功の鍵は何か	吉村 玲児	精神医学	10,011,628	補委 労災疾病臨床研究事業費補助金(厚生労働省)
免疫低下を認める小児に対する肺炎球菌ワクチンおよびヒブワクチンの有効性の検討	保科 隆之	小児科学	1,345,211	補委 日本学術振興会
ランゲルハンス細胞組織球症の病態解明と選択的治療へ向けた基礎的研究	本田 裕子	小児科学	656,669	補委 日本学術振興会
小児生活習慣病に対する効果的運動介入方法の構築:指標としてのマイオカイン系の解明	山本 幸代	小児科学	1,107,158	補委 日本学術振興会
小児の細菌性肺炎の鑑別に有用なバイオマーカーの検索	楠原 浩一	小児科学	900,000	補委 日本学術振興会
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	楠原 浩一	小児科学	600,000	補委 厚生労働省科学研究費
胃癌におけるイノシトール3リン酸(IP3)受容体発現と臨床的意義の検討	柴尾 和徳	第1外科学	1,733,058	補委 日本学術振興会
マイクロアレイを用いた肺癌進展におけるヒアルロン酸ネットワークの役割解析	佐藤 典宏	第1外科学	1,373,473	補委 日本学術振興会
EMTを起した肺癌循環腫瘍細胞のマイクロ流体チップシステムを用いた検出法の開発	近石 泰弘	第2外科学	1,198,296	補委 日本学術振興会
肺がん等検出のためのシステム評価の検討	田中 文啓	第2外科学	4,040,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
蛍光試薬5-アミノレブリン酸の放射線増感作用を悪性脳腫瘍治療へ応用する	山本 淳考	脳神経外科学	800,000	補委 日本学術振興会
グリオーマに対する5-アミノレブリン酸併用放射線照射における免疫機序の解明	中野 良昭	脳神経外科学	700,000	補委 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
遺伝子改変動物を用いた疼痛ストレスにおける脳内生理活性物質の分子基盤の解明	川崎 展	整形外科学	1,200,000	補委 日本学術振興会
加齢に伴う脊椎変性メカニズムの分子生物学的解明	中村 英一郎	整形外科学	1,000,000	補委 日本学術振興会
メカニカルストレス下における骨構成細胞間コミュニケーションの分子調節機構の解明	酒井 昭典	整形外科学	700,000	補委 日本学術振興会
マイコプラズマ・ジェンタリウム尿道炎の抗菌薬治療に関する検討	濱砂 良一	泌尿器科学	262,112	補委 日本学術振興会
排尿障害を有する要支援・要介護高齢者の排尿自立に関する研究	西井 久枝	泌尿器科学	900,000	補委 国立長寿医療研究センター
悪性黒色腫遺伝子変異誘導機構の解明と新規予防法の開発	中村 元信	皮膚科学	1,188,072	補委 日本学術振興会
有棘細胞癌における遺伝子変異誘導蛋白発現の検討と発症予防法の開発	山口 卓	皮膚科学	2,552,610	補委 日本学術振興会
遺伝子変異の機能評価による家族性滲出性硝子体網膜症の多様性の解析	近藤 寛之	眼科学	912,432	補委 日本学術振興会
運転中に視機能に及ぼす影響に関する研究～新しい安全指標～	永田 竜朗	眼科学	344,484	補委 日本学術振興会
慢性副鼻腔炎における鼻内細菌叢の評価	竇地 信介	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	513,954	補委 日本学術振興会
構造的転写共役因子を分子標的とした子宮体癌治療と薬剤耐性機構の解明	蜂須賀 徹	産科婦人科学	800,000	補委 日本学術振興会
妊婦の喫煙並びに家庭内喫煙が胎盤の糖・アミノ酸・脂肪酸輸送に与える影響の研究	柴田 英治	産科婦人科学	3,211,000	補委 環境省
うつ病患者の遺伝子多型が脳微小構造に及ぼす影響をMR統計画像解析を用いて評価する	興梠 征典	放射線科学	441,561	補委 日本学術振興会
多発性硬化症の通常のMRで検出困難な脳白質傷害の評価:位相差強調画像に関する研究	掛田 伸吾	放射線科学	659,623	補委 日本学術振興会
CT経時差分画像を用いた胸部診断支援システムに関する研究	青木 隆敏	放射線科学	464,402	補委 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
実測線量データに基づくIVR被曝管理技術の開発と多職種連携治療支援体制の構築	掛田 伸吾	放射線科学	800,000	補委 日本学術振興会
IVR専属放射線サポートチームによる線量値に基づいた患者被曝管理体制の確立	二ツ矢 浩一郎	放射線科学	1,996,040	補委 日本学術振興会
指骨CR画像のコンピュータ画像診断支援法の開発	青木 隆敏	放射線科学	99,000	補委 公益財団法人北九州産業学術推進機構
うつ病患者の復職成功の鍵は何か	興梠 征典	放射線科学	7,754,668	補委 労災疾病臨床研究事業費補助金(厚生労働省)
外科侵襲による抗菌ペプチド産生変化と白血球モジュレーションによる制御法の開発	川崎 貴士	麻酔科学	1,660,746	補委 日本学術振興会
冷感アロディニアに対する新たな鎮痛薬開発を目指したTRPM8受容体抑制機序の解明	堀下 貴文	麻酔科学	1,299,809	補委 日本学術振興会
難治性慢性疼痛に対する新たな鎮痛薬開発を目指したP2X7受容体機能抑制機序の解明	大倉 暖	麻酔科学	1,197,557	補委 日本学術振興会
ポリオ罹患者のF波波形解析によるポリオ後症候群危険予測指標作成と臨床応用	蜂須賀 明子	リハビリテーション医学	574,042	補委 日本学術振興会
片麻痺上肢に対する中枢性および末梢性電気刺激の併用療法の最適化に関する研究	佐伯 覚	リハビリテーション医学	536,876	補委 日本学術振興会
スモンに関する調査研究	佐伯 覚	リハビリテーション医学	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費
中高年齢労働者の体力増進のための予防的リハビリテーションの産業保健への応用に関する研究	佐伯 覚	リハビリテーション医学	5,879,518	補委 労災疾病臨床研究事業費補助金(厚生労働省)
身体疾患を有する患者の治療と就労の両立を支援するための主治医と事業場(産業医等)の連携方法に関する研究-「両立支援システム・パス」の開発	佐伯 覚	リハビリテーション医学	13,050,730	補委 労災疾病臨床研究事業費補助金(厚生労働省)
心臓MRIを用いたフューチャートラッキングストレイン法による予後予測の検討	竹内 正明	臨床検査・輸血部	2,454,401	補委 日本学術振興会
我が国の関節リウマチ診療標準化のための研究	平田 信太郎	臨床検査・輸血部	200,000	補委 厚生労働省科学研究費
関節リウマチにおける関節破壊を予測する新規マルチバイオマーカー創出に関する研究	平田 信太郎	臨床検査・輸血部	800,000	補委 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
骨髄肥満が骨芽細胞－骨細胞分科系列に与える影響とその制御機構の解明	内橋 和芳	第1病理学	1,305,766	補 委 日本学術振興会
次世代シーケンシングによる骨軟部腫瘍特異的融合遺伝子検出の試み	久岡 正典	第1病理学	1,733,400	補 委 日本学術振興会
難消化性糖質摂取による腸内細菌由来水素ガスの抗酸化能を介した老化遅延に関する研究	中山 敏幸	第2病理学	150,000	補 委 日本学術振興会
神経障害性疼痛モデルにおけるアンギオテンシン受容体作動薬の中樞作用	原 幸治	手術部	11,545	補 委 日本学術振興会
失神とてんかんの鑑別診断を容易にする新しい失神診断ツールの作成	安部 治彦	不整脈先端治療学	1,682,173	補 委 日本学術振興会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

計5 計80

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Hirata S	第1内科学	A multi-biomarker disease activity score tracks clinical response consistently in patients with rheumatoid arthritis treated with different anti-tumor necrosis factor therapies: A retrospective observational study.	Mod Rheumatol. 25(3):344-9, 2015
2	Iwata S	第1内科学	Increased Syk phosphorylation leads to overexpression of TRAF6 in peripheral B cells of patients with systemic lupus erythematosus.	Lupus. 24(7):695-704, 2015
3	Tanaka Y	第1内科学	Human mesenchymal stem cells as a tool for joint repair in rheumatoid arthritis.	Clin Exp Rheumatol. 33(4 Suppl 92):S58-62, 2015
4	Tanaka Y	第1内科学	Efficacy and safety of tofacitinib as monotherapy in Japanese patients with active rheumatoid arthritis: a 12-week, randomized, phase 2 study.	Mod Rheumatol. 25(4):514-21, 2015
5	Tanaka Y	第1内科学	Recent progress and perspective in JAK inhibitors for rheumatoid arthritis: from bench to bedside.	J Biochem. 158(3):173-9, 2015
6	Hirata S	第1内科学	Serum 14-3-3 η level is associated with severity and clinical outcomes of rheumatoid arthritis, and its pretreatment level is predictive of DAS28 remission with tocilizumab.	Arthritis Res Ther. 17:280, 2015
7	Tsujimura S	第1内科学	Disease control by regulation of P-glycoprotein on lymphocytes in patients with rheumatoid arthritis.	World J Exp Med. 5(4):225-31, 2015
8	Kurozumi A	第1内科学	Detrimental effects of high-fat diet loading on vascular endothelial function and therapeutic efficacy of ezetimibe and statins in patients with type 2 diabetes.	Endocr J. 63(5):431-440, 2016
9	Tanaka Y	第1内科学	Current concepts in the management of rheumatoid arthritis.	Korean J Intern Med. 31(2):210-8, 2016
10	Hirata S	第1内科学	Association of the multi-biomarker disease activity score with joint destruction in patients with rheumatoid arthritis receiving tumor necrosis factor-alpha inhibitor treatment in clinical practice.	Mod Rheumatol. 30:1-7, 2016
11	Tanaka Y	第1内科学	Efficacy and Safety of Baricitinib in Japanese Patients with Active Rheumatoid Arthritis Receiving Background Methotrexate Therapy: A 12-week, Double-blind, Randomized Placebo-controlled Study.	J Rheumatol. 43(3):504-11, 2016
12	Tanaka Y	第1内科学	Evaluation of golimumab for the treatment of patients with active rheumatoid arthritis.	Expert Opin Drug Metab Toxicol. 12(3):319-26, 2016
13	Tanaka Y	第1内科学	Prevention of joint destruction in patients with high disease activity or high C-reactive protein levels: Post hoc analysis of the GO-FORTH study.	Mod Rheumatol. 26(3):323-30, 2016
14	Tanaka Y	第1内科学	Response to Dr Minota's Letter to the Editor of Modern Rheumatology Regarding a Study of Tofacitinib in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis.	Mod Rheumatol. 26(2):318-9, 2016
15	Tanaka Y	第1内科学	Adalimumab discontinuation in patients with early rheumatoid arthritis who were initially treated with methotrexate alone or in combination with adalimumab: 1year outcomes of the HOPEFUL-2 study.	RMD Open. 2(1):e000189, 2016
16	Takeuchi T	第1内科学	Efficacy and safety of olokizumab in Asian patients with moderate-to-severe rheumatoid arthritis, previously exposed to anti-TNF therapy: Results from a randomized phase II trial.	Mod Rheumatol. 26(1):15-23, 2016

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
17	Mori H	第1内科学	Incidence of Vitamin D Deficiency and Its Relevance to Bone Metabolism in Japanese Postmenopausal Women with Type 2 Diabetes Mellitus.	Intern Med. 54(13):1599-604, 2015
18	Tanaka Y	第1内科学	Efficacy and safety of rituximab in Japanese patients with systemic lupus erythematosus and lupus nephritis who are refractory to conventional therapy.	Mod Rheumatol. 26(1):80-6, 2016
19	Nagata Y	第2内科学	Intervendor variability of two-dimensional strain using vendor-specific and vendor-independent software.	J Am Soc Echocardiogr. 28(6):630-41, 2015
20	Kashiyama K	第2内科学	Coronary plaque progression of non-culprit lesions after culprit percutaneous coronary intervention in patients with moderate to advanced chronic kidney disease: intravascular ultrasound and integrated backscatter intravascular ultrasound study.	Int J Cardiovasc Imaging. 31(5):935-45, 2015
21	Mizukoshi K	第2内科学	Normal Values of Left Ventricular Mass Index Assessed by Transthoracic Three-Dimensional Echocardiography.	J Am Soc Echocardiogr. 29(1):51-61, 2016
22	Miyamoto T	第2内科学	Impact of tonsillectomy combined with steroid pulse therapy on immunoglobulin A nephropathy depending on histological classification: a multicenter study.	Clin Exp Nephrol. 20(1):50-7, 2016
23	Sonoda S	第2内科学	Do Two Eyes Really See More Than One?—Intravascular Ultrasound and Optical Coherence Tomography.	Circ J. 79(9):1891-2, 2015
24	Nakazono A	臨床検査・輸血部	Left atrial appendage thrombosis in a patient with sinus rhythm and left atrial appendage dysfunction.	J of Echocardiography 2015; 13: 157-8.
25	Watanabe T	第3内科学	Usefulness of a novel calibrated hood to determine indications for colon polypectomy: visual estimation of polyp size is not accurate.	Int J Colorectal Dis. 30(7):933-8, 2015
26	Oe S	第3内科学	Hepatitis A complicated with acute renal failure and high hepatocyte growth factor: A case report.	World J Gastroenterol. 21(32):9671-4, 2015
27	Kume K	第3内科学	Development of a novel endoscopic manipulation system: the Endoscopic Operation Robot ver.3.	Endoscopy. 47(9):815-9, 2015
28	Hiura M	第3内科学	Alleviation mechanisms against hepatocyte oxidative stress in patients with chronic hepatic disorders.	Hepato Res. 45(11):1124-35, 2015
29	Minami S	第3内科学	Acute Liver Failure Complicated with Severe Heart Failure.	Intern Med. 54(19):2443-7, 2015
30	Kume K	第3内科学	Development of a Novel Endoscopic Manipulation System: The Endoscopic Operation Robot ver. 2.	Hepatogastroenterology. 62(140):843-5, 2015
31	Nishida C	呼吸器内科学	Possible familial case of Birt-Hogg-Dube syndrome complicated with lung cancer: A possible link between these two disease entities.	Respir Med. 109(7):923-5, 2015
32	Yamasaki K	呼吸器内科学	Possible role of anaerobes in the pathogenesis of nontuberculous mycobacterial infection.	Respirology. 20(5):758-65, 2015
33	Noguchi S	呼吸器内科学	A Case of Rapid Exacerbation of Pulmonary Mycobacterium Avium Complex Infection Mimicking Pulmonary Aspergillosis.	J UOEH. 37(3):177-83, 2015
34	Akata K	呼吸器内科学	Distribution and annual changes in Streptococcus pneumoniae serotypes in adult Japanese patients with pneumonia.	J Infect Chemother. 21(10):723-8, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
35	Ogoshi T	呼吸器内科学	Incidence and outcome of lung involvement in IgG4-related autoimmune pancreatitis.	Respirology. 20(7):1142-4, 2015
36	Sato N	呼吸器内科学	A case of 37 year long Behcet disease resembling Takayasu arteritis: An autopsy report.	Pathol Int. 66(3):164-168, 2016
37	Akata K	呼吸器内科学	Decreased Bronchial Eosinophilic Inflammation and Mucus Hypersecretion in Asthmatic Mice Lacking All Nitric Oxide Synthase Isoforms.	Lung. 194(1):121-4, 2016
38	Yatera K	呼吸器内科学	Possible clinical effects of macrolides on the treatment of primary pulmonary mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma.	Int J Hematol. 103(2):251-2, 2016
39	Yatera K	呼吸器内科学	Clinical efficacy and safety of high-dose doripenem in Japanese patients with pneumonia.	J Infect Chemother. 22(3):137-42, 2016
40	Yamasaki K	呼吸器内科学	Successful Additional Corticosteroid Treatment in a Patient with Mycoplasma pneumoniae Pneumonia in whom a Monobacterial Infection was Confirmed by a Molecular Method Using Bronchoalveolar Lavage Fluid.	Intern Med. 55(6):703-7, 2016
41	Akata K	呼吸器内科学	In-hospital airborne tuberculous infection from a lesion of calcified pleural thickening during thoracic surgery in a patient with lung cancer.	Intern Med. 54(20):2699-703, 2015
42	Ishimoto H	呼吸器内科学	A serious mediastinum abscess induced by endobronchial ultrasound-guided transbronchial needle aspiration (EBUS-TBNA): a case report and review of the literature.	Intern Med. 54(20):2647-50, 2015
43	Yatera K	呼吸器内科学	Splenic calcification in a patient with silicosis.	Intern Med. 54(8):987-8, 2015
44	Noguchi S	呼吸器内科学	Bacteriological assessment of healthcare-associated pneumonia using a clone library analysis.	PLoS One. 10(4):e0124697, 2015
45	Yatera K	呼吸器内科学	Prevalence of sinusitis and efficacy of intranasal corticosteroid treatment on asthmatic symptoms in asthmatic patients with rhinosinusitis: a pilot study.	Int Forum Allergy Rhinol. 2015 DOI:10.1002/air.21672.
46	Noguchi S	呼吸器内科学	The clinical features of respiratory infections caused by the Streptococcus anginosus group.	BMC Pulm Med. 15:133. 2015
47	Morimoto Y	呼吸器内科学	Comparison of pulmonary inflammatory responses following intratracheal instillation and inhalation of nanoparticles.	Nanotoxicology. 2015 DOI:10.3109/17435390.2015.1104740
48	Shimabukuro I	呼吸器内科学	Primary Pulmonary Angiosarcoma Presenting with Hemoptysis and Ground-Glass Opacity: A Case Report and Literature Review.	Tohoku J Exp Med. 237(4):273-8. 2015
49	Okada K	神経内科学	Human immunoglobulin G suppresses the production of matrix metalloproteinase-9 in peripheral blood mononuclear cells of patients with multiple sclerosis.	Clin Exp Neuroimmunol. 6:281-288, 2015
50	Kobata M	神経内科学	Paraneoplastic neuromyelitis optica spectrum disorder manifesting as intractable nausea and acute cerebellar ataxia associated with lung adenocarcinoma.	Neurol Clin Neurosci 3(6): 223-225, 2015.
51	Toyota T	神経内科学	Neuronal intranuclear inclusion disease manifesting with new-onset epilepsy in the elderly.	Neurol Clin Neurosci 3(6): 238-240, 2015.
52	Toyota T	神経内科学	Interictal epileptiform discharges in new-onset epilepsy among older adults.	Neurol Clin Neurosci 4: 3-9, 2016.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
53	Tesen H	精神医学	Electroconvulsive-therapy-associated neutropenia in treatment-resistant schizophrenia: Three case reports.	Psychiatry Clin Neurosci. 69(8):504, 2015
54	Morita G	精神医学	Decreased Activity at the Time of Return to Work Predicts Repeated Sick Leave in Depressed Japanese Patients.	J Occup Environ Med. 58(2):e56-7, 2016
55	Yoshimura R	精神医学	Serum levels of brain-derived neurotrophic factor (BDNF), proBDNF and plasma 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol levels in chronic schizophrenia.	Ann Gen Psychiatry. 15:1, 2016
56	Atake K	精神医学	Catechol-O-methyltransferase Val158Met genotype and the clinical responses to duloxetine treatment or plasma levels of 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol and homovanillic acid in Japanese patients with major depressive disorder.	Neuropsychiatr Dis Treat. 11:967-74, 2015
57	Hoshina T	小児科学	Memory B-Cell Pools Predict the Immune Response to Pneumococcal Conjugate Vaccine in Immunocompromised Children.	J Infect Dis. 213(5):848-55, 2016
58	Kawase M	小児科学	Serial Changes of Serum Cytokine in a Pediatric Patient with Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome.	Pediatr Infect Dis J 35(3):359-60,2016
59	Hoshina T	小児科学	The uselessness of procalcitonin in the diagnosis of focal bacterial central nervous system infection.	J Infect Chemother 21(8):620-2,2015
60	Sato N	第1外科学	Single-incision laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis: A retrospective cohort study of 52 consecutive patients.	Int J Surg. 17:48-53, 2015
61	Sato N	第1外科学	The role of hyaluronan in pancreatic cancer biology and therapy: Once again in the spotlight.	Cancer Sci.2016 DOI:10.1111/cas.12913
62	Sato N	第1外科学	Targeting hyaluronan for the treatment of pancreatic ductal adenocarcinoma.	Acta Pharm Sin B. 6(2):101-5, 2016
63	Nakamoto M	第1外科学	Clinicopathological Implications of Wntless/int1 (WNT) Signaling Pathway in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	J UOEH. 38(1):1-8, 2016
64	Kohi S	第1外科学	A novel epigenetic mechanism regulating hyaluronan production in pancreatic cancer cells.	Clin Exp Metastasis. 33(3):225-30, 2016
65	Nakayama Y	第1外科学	A Case of Advanced Descending Colon Cancer in an Adult Patient with Intestinal Malrotation.	Case Rep Gastrointest Med. 2016:3194056, 2016
66	Kuwata T	第2外科学	The impact of covering the bulla with an absorbable polyglycolic acid (PGA) sheet during pneumothorax surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 1-3, 2015
67	Shinohara S	第2外科学	Primary Adenoid Cystic Carcinoma of the Peripheral Lungs.	J UOEH. 37(2):121-5, 2015
68	Shinohara S	第2外科学	Pleural dissemination of a mixed ground-glass opacity nodule treated as a nontuberculous mycobacterial infection for 6 years without growing remarkably.	J Thorac Dis. 7(9):E370-3, 2015
69	Chikaishi Y	第2外科学	TMPRSS4 Expression as a Marker of Recurrence in Patients with Lung Cancer.	Anticancer Res. 36(1):121-7, 2016
70	Tanaka F	第2外科学	Adjuvant therapy following surgery in non-small cell lung cancer (NSCLC).	Surg Today. 46(1):25-37, 2016

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
71	Yamamoto J	脳神経外科学	Primary intraosseous meningioma in the calvaria: morphological feature changes on magnetic resonance images over several years.	Jpn J Radiol. 33(7):437-40, 2015
72	Nakano Y	脳神経外科学	Pilocytic astrocytoma presenting with atypical features on magnetic resonance imaging.	J Neuroradiol. 42(5):278-82, 2015
73	Yamanaka Y	整形外科	Enhanced expression of Wnt9a in the flexor tenosynovium in idiopathic carpal tunnel syndrome.	J Orthop Res. 33(10):1531-6, 2015
74	Fujitani T	整形外科	Negative Pressure Wound Therapy with Surgical Gloves to Repair Soft Tissue Defects in Hands.	J UOEH. 37(3):185-190, 2015
75	Inoue A	皮膚科学	Pyogenic granuloma caused by afatinib: Case report and review of the literature.	Australas J Dermatol. 2015 DOI:10.1111/ajd.12423
76	Inoue A	皮膚科学	Photoallergic Drug Eruption Caused by Certolizumab Pegol.	Acta Derm Venereol. 2015 DOI:10.2340/00015555-2334
77	Yamada S	皮膚科学	Acute edema/cutaneous distension syndrome representing as eczema craquele-like change: A case and published work review.	J Dermatol. 2016 DOI:10.1111/1346-8138-13267
78	Saito-Sasaki N	皮膚科学	First case of acute generalized exanthematous pustulosis caused by pitavastatin: possible pathogenetic role of IL-36.	Eur J Dermatol. 26(1):106-7, 2016
79	Mashima E	皮膚科学	Annular erythematous eruption with a high response to mosquito bite.	J Dermatol. 2016 DOI:10.1111/1346-8138.13393
80	Inoue A	皮膚科学	Maculopapular type drug eruption caused by pregabalin: A case and literature review.	Allergol Int. 65:219-220, 2016
81	Sakuragi Y	皮膚科学	Acute Generalized Exanthematous Pustulosis Caused by Faropenem: A Possible Pathogenetic Role for Interleukin-23.	Acta Derm Venereol. 96(2):265-266, 2016
82	Mashima E	皮膚科学	Nivolumab in the treatment of malignant melanoma: review of the literature.	Onco Targets Ther. 8:2045-51, 2015
83	Fujimoto N	泌尿器科学	Novel agents for castration-resistant prostate cancer: Early experience and beyond.	Int J Urol. 23(2):114-121, 2016
84	Fujimoto N	泌尿器科学	Cessation of Primary Androgen Deprivation Therapy for Men With Localized Prostate Cancer.	Clin Genitourin Cancer. 13(4):359-63, 2015
85	Hamasuna R	泌尿器科学	The second nationwide surveillance of the antimicrobial susceptibility of Neisseria gonorrhoeae from male urethritis in Japan, 2012-2013	Infect Chemother 21: 340-345, 2015.
86	Kondo H	眼科学	Mutations in ATOH7 gene in patients with nonsyndromic congenital retinal nonattachment and familial exudative vitreoretinopathy.	Ophthalmic Genet. 2016 DOI:10.3109/13816810.2015.1120316
87	Kondo H	眼科学	Complex genetics of familial exudative vitreoretinopathy and related pediatric retinal detachments.	Taiwan Journal of Ophthalmology. 5:56-62, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
88	Koizumi H	耳鼻咽喉科、頭頸部外科学	Increased permeability of the epithelium of middle ear cholesteatoma.	Clin Otolaryngol. 40(2):106-14, 2015
89	Kitamura T	耳鼻咽喉科、頭頸部外科学	Obstructive sleep apnea in preschool-aged Japanese children – efficiency of screening using lateral neck radiography.	Acta Otolaryngol. 2016 DOI:10.107/S00405-016-3930-8
90	Koizumi H	耳鼻咽喉科、頭頸部外科学	Osteoclasts are not activated in middle ear cholesteatoma.	J Bone Miner Metab. 34(2):193-200, 2016
91	Sho T	産婦人科学	Expression of p53 in endometrial polyps with special reference to the p53 signature.	Histol Histopathol. 2016 DOI:10.14670/HH11-713
92	Kurita T	産婦人科学	The Relationship between Positive Peritoneal Cytology and the Prognosis of Patients with Uterine Cervical Cancer.	Acta Cytol. 59(2):201-6, 2015
93	Murakami Y	放射線科学	Usefulness of quantitative susceptibility mapping for the diagnosis of Parkinson disease.	AJNR Am J Neuroradiol. 36(6):1102-8, 2015
94	Yahara K	放射線科学	Definitive radiotherapy plus regional hyperthermia for high-risk and very high-risk prostate carcinoma: Thermal parameters correlated with biochemical relapse-free survival.	Int J Hyperthermia. 31(6):600-608, 2015
95	Ide S	放射線科学	Relationship between a BDNF gene polymorphism and the brain volume in treatment-naive patients with major depressive disorder: A VBM analysis of brain MRI.	Psychiatry Res. 233(2):120-4, 2015
96	Aoki T	放射線科学	Growth of pure ground-glass lung nodule detected at computed tomography.	J Thorac Dis. 7(9):E326-8, 2015
97	Watanabe K	放射線科学	Relationship between the catechol-O-methyl transferase Val108/158Met genotype and brain volume in treatment-naive major depressive disorder: Voxel-based morphometry analysis.	Psychiatry Res. 233(3):481-7, 2015
98	Ohguri T	放射線科学	Efficacy of hyperbaric oxygen therapy combined with mild hyperthermia for improving the anti-tumour effects of carboplatin.	Int J Hyperthermia. 31(6):643-8, 2015
99	Kakeda S	放射線科学	Improved Detection of Cortical Gray Matter Involvement in Multiple Sclerosis with Quantitative Susceptibility Mapping.	Acad Radiol. 22(11):1427-32, 2015
100	Watanabe K	放射線科学	Prediction of hard meningiomas: quantitative evaluation based on the magnetic resonance signal intensity.	Acta Radiol. 57(3):333-40, 2016
101	Ueda I	放射線科学	Relationship between G1287A of the NET Gene Polymorphisms and Brain Volume in Major Depressive Disorder: A Voxel-Based MRI Study.	PLoS One. 11(3):e0150712, 2016
102	Watanabe K	放射線科学	Genetic Variation in the Catechol-O-Methyl Transferase Val108/158Met Is Linked to the Gaudate and Posterior Cingulate Cortex Volume in Healthy Subjects: Voxel-Based Morphometry Analysis of Brain Magnetic Resonance Imaging.	PLoS One. 10(11):e0142862, 2015
103	Fujii M	放射線科学	Concurrent hyperfractionated chemoradiotherapy for head and neck squamous cell carcinoma: the prognostic impact of the overall treatment time and completion rates of chemotherapy.	Springerplus. 4:446, 2015
104	Ueda I	放射線科学	Gallbladder metastasis from renal cell carcinoma: a case report with review of the literature.	Magn Reson Med Sci. 18;14(2):133-8, 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
105	Hachisuka A	リハビリテーション 医学	Repeater F-waves are signs of motor unit pathology in polio survivors.	Muscle Nerve. 51(5):680-5, 2015
106	Iwanaga M	リハビリテーション 医学	Effects of low-dose milnacipran on event-related potentials and neuropsychological tests in persons with traumatic brain injury: A preliminary study.	Brain Inj. 29(10):1252-1257, 2015
107	Ochi M	リハビリテーション 医学	Gait training in subacute non-ambulatory stroke patients using a full weight-bearing gait-assistance robot: A prospective, randomized, open, blinded-endpoint trial.	J Neurol Sci. 353(1-2):130-6, 2015
108	Tasaki T	病理診断科	An autopsy case of myocardial infarction due to idiopathic thrombotic thrombocytopenic purpura.	Diagn Pathol. 10:52, 2015
109	Harada Y	病理診断科	Strong expression of polypeptide N-acetylgalactosaminyltransferase 3 independently predicts shortened disease-free survival in patients with early stage oral squamous cell carcinoma.	Tumour Biol. 37(1):1357-68, 2016
110	Shibuya R	病理診断科	CAMTA1 is a useful immunohistochemical marker for diagnosing epithelioid haemangioendothelioma.	Histopathology. 67(6):827-35, 2015
111	Yamada S	病理診断科	Embryonal rhabdomyosarcoma arising from the uterine corpus in a postmenopausal female: a surgical case challenging the genuine diagnosis on a cytology specimen.	Diagn Pathol. 11(1):3, 2016
112	Shiba E	病理診断科	Immunohistochemical and molecular detection of the expression of FGF23 in phosphaturic mesenchymal tumors including the non-phosphaturic variant.	Diagn Pathol. 11(1):26, 2016
113	Yamaguchi T	血液内科	Expression of BAF57 in ovarian cancer cells and drug sensitivity.	Cancer Sci. 106(4):359-66, 2015
114	Hirosawa M	血液内科	A striking response of plasmablastic lymphoma of the oral cavity to bortezomib: a case report.	Biomark Res. ;3:28, 2015
115	Kawahara A	血液内科	Reversible methotrexate-associated lymphoma of the liver in rheumatoid arthritis: a unique case of primary hepatic lymphoma.	Biomark Res. 3:10, 2015
116	Mayumi T	救急医学	Practice Guidelines for Primary Care of Acute Abdomen 2015.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 23(1):3-36, 2016
117	Mayumi T	救急医学	The Practice Guidelines for Primary Care of Acute Abdomen 2015.	Jpn J Radiol. 34(1):80-115, 2016
118	Mayumi T	救急医学	The Practice Guidelines for Primary Care of Acute Abdomen 2015.	Journal of General and Family Medicine. 17(1):5-52, 2016
119	Takagi T	放射線部	Evaluation of the effects of subject thickness on the exposure index in digital radiography	Radiological Physics and Technology 9(1):116-120, 2016

計119件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
 - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
 - 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
 - 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会及び倫理委員会専門委員会の審査等に係る手順書 I 基本事項 II 人を対象とする医学系研究に係る研究者等が遵守すべき事項 1 研究者等が遵守すべき事項 2 学長の責務 3 倫理委員会の運営 4 研究等において予期しない重篤な有害事象及び不具合が発生した場合の対応について III 倫理委員会における倫理審査研究計画書等の提出及び審査の手順 IV ヒトゲノム・遺伝子解析研究に係る研究者等が遵守すべき事項 V 倫理委員会専門委員会における倫理審査研究計画書等の提出及び審査の手順 VI 記録の保存	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
規定の主な内容 産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理することを目的とした規定を整備している。 規定では「管理すべき利益相反」状況を判断する基準を指針として示すとともに、産学連携活動を適切に推進するため利益相反委員会を設置し、教職員等に対して利益相反に該当する事例が発生又は発生が予測され、学校法人活動に悪影響を与えられるときは当該事例を委員会に報告することを義務付けている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 11 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容 平成27年度</p> <p>1. 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (平成27年9月29日、9月30日開催)</p> <p>研修内容 (1) モニタリングと監査について</p> <p>2. 人を対象とする研究倫理に関する講習会 (平成28年3月23日、3月30日開催)</p> <p>研修内容 (1) 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (2) モニタリングレポートの提出について</p>	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

産業医科大学病院の診療科等に所属して行う臨床修練及び産業医実務研修
a 各診療科に特化した専門的な臨床修練
b 診療を通じての臨床教育の補助的業務及び診療に関する研究
c 産業医科大学若松病院、労災病院等における臨床修練又は事業場、労働衛生機関等における産業医修練、或いはその両方の修練
d 産業医学基本講座の受講
e 産業医学実務講座の受講

2 研修の実績

研修医の人数	148.92 人
--------	----------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 良哉	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科	診療科長	31年	
尾辻 豊	循環器内科、腎臓内科	診療科長	34年	
原田 大	消化管内科、肝胆膵内科	診療科長	28年	
塚田 順一	血液内科	診療科長	31年	
矢寺 和博	呼吸器内科	副診療科長	21年	
足立 弘明	神経内科、心療内科	診療科長	24年	
吉村 玲児	神経・精神科	診療科長	27年	
楠原 浩一	小児科	診療科長	32年	
平田 敬治	消化器・内分泌外科	診療科長	28年	
田中 文啓	呼吸器・胸部外科	診療科長	29年	
西村 陽介	心臓血管外科	診療科長	29年	
西澤 茂	脳神経外科	診療科長	37年	
酒井 昭典	整形外科	診療科長	29年	
中村 元信	皮膚科	診療科長	24年	
安田 浩	形成外科	診療科長	31年	
藤本 直浩	泌尿器科	診療科長	31年	
近藤 寛之	眼科	診療科長	27年	
鈴木 秀明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療科長	30年	
蜂須賀 徹	産婦人科	診療科長	37年	
興梠 征典	放射線科	診療科長	34年	
川崎 貴士	麻酔科	診療科長	25年	
佐伯 覚	リハビリテーション科	診療科長	27年	
久岡 正典	病理診断科	診療科長	27年	
真弓 俊彦	救急科	診療科長	30年	
蒲地 正幸	集中治療部	部長	30年	
竹内 正明	臨床検査・輸血部	部長	30年	
蜂須賀 徹	総合周産期母子医療センター	センター長	37年	
大矢 亮一	歯科・口腔外科	診療科長	31年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 合同がんセンターボード
・研修の期間・実施回数 3回（H27.7.15、H27.11.18、H28.3.9）
・研修の参加人数 （H27.7.15）127人、（H27.11.18）71人、（H28.3.9）90人
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・個人情報保護 ・感染防止に関わる病院職員の心得 ・当院の医療安全対策の基本
・研修の期間・実施回数 平成27年4月 ～ 平成28年3月 （11回）
・研修の参加人数 平成27年4月205名、5月5名、6月5名、7月7名、8月5名、9月13名、 10月22名、11月0名、12月4名、平成28年1月10名、2月7名、3月3名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容
・研修の期間・実施回数
・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 佐多 竹良	
管理担当者氏名	医療情報部長 林田 賢史 感染制御部副部長 鈴木 克典 看護部長 長野 裕子 放射線部長 興梠 征典 医療安全室長 杉本 裕昭	医療安全管理部長 古賀 和徳 医療機器安全管理責任者 高橋 一久 薬剤部長 浅原 稔生 病院管理課長 田中 和寿 医事課長 伊藤 浩二

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課
		各科診療日誌	各病棟
		処方せん	薬剤部
		手術記録	病歴室
		看護記録	看護部
		検査所見記録	臨床検査・輸血部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医事課
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病歴室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課
		高度の医療の提供の実績	病院管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
		閲覧実績	病院管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部及び医療安全室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部及び医療安全室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部及び医療安全室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部及び医療安全室
			毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。
			毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部及び医療安全室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部及び医療安全室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部及び医療安全室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部及び医療安全室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部、薬剤部及び医療安全室
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び医療安全室
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び医療安全室
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	情報収集や改善策の実施に関する記録:薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部、臨床工学部及び医療安全室
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び医療安全室
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び医療安全室
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部及び医療安全室

毎年度ごとに電子媒体において管理及びファイルにおいても管理している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十二第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部及び医療安全室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部及び医療安全室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部、薬剤部及び医療安全室
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部及び医療安全室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部及び医療安全室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部及び医療安全室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部及び医療安全室（予定）
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部、薬剤部及び医療安全室
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部及び医療安全室（予定）
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部及び医療安全室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部及び医療安全室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部及び医療安全室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部及び医療安全室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部及び医療安全室
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部、薬剤部、臨床工学部及び医療安全室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 吉田 剛		
閲覧担当者氏名	病院管理課長 田中和寿、病院管理課課長代理 星野一幸		
閲覧の求めに応じる場所	診療情報等閲覧室		
閲覧の手続の概要 病院事務部入り口に診療情報等閲覧受付と表示しており、閲覧希望者が来院された際には、病院管理課にて受付を行い、病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧簿に氏名等を記載して頂き診療情報等閲覧室にて閲覧することとなっている。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療安全に関する基本的考え方医療安全のための委員会とその他組織に関する基本的事項医療安全のための職員研修に関する基本方針医療事故及び病院感染の発生状況の報告等に関する基本的指針医療事故又は病院感染発生時の対応に関する基本方針患者からの相談への対応に関する基本方針その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無（有・無）：医療安全管理委員会・ 開催状況：年 15 回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 重大な医療事故等の問題が発生した場合の原因調査・分析2) 1)を踏まえた改善策の立案・実施、従業者への周知3) 2)の改善策の実施の状況の調査（院内巡視など）、改善策の見直し4) その他、医療安全対策の検討、実施に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療安全対策、医薬品・医療機器安全使用などに関すること平成27年度のテーマ1) 特定機能病院の医療安全強化のためのタスクフォース2) 医薬品安全管理に資するコミュニケーション術3) クリニカル・ガバナンス（報告文化の醸成など）	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) セーフティーマネージャー連絡会議の開催2) 事例検証、MMカンファレンスの開催3) 各種ワーキンググループ活動（IC、救急カート、転倒予防等）	

- 4) 全死亡症例のレビュー、会議での報告
- 5) 医療事故調査制度（医療法6条の10）への対応
規程整備、院内死亡事例の医療安全管理部への報告体制整備
死亡時画像診断（Ai）に関する体制整備
全診療科への説明会の実施
- 6) 希釈が必要な注射薬一覧の作成、周知
- 7) 転倒転落防止パンフレット/転倒予防ポスターの作成
- 8) 気管カニューレ交換に関するマニュアルの作成、周知
- 9) IC文書の作成・改訂
- 10) 患者への事故後の説明に関する指導、立会いなど

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

(様式第6)

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容：本院では、感染防止対策マニュアルⅡ 病院感染防止に関する事項の中に、院内感染防止対策の基本指針として策定している。 ・ 策定年月日（平成 13年 2月 28日）・直近の変更年月日（平成 28年 9月 16日） 1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 2) 病院感染防止委員会の組織に関する基本事項 3) 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本指針 4) 感染症の発症状況報告に関する基本指針 5) 院内感染発生時の対応に関する基本指針 6) その他の院内感染防止の推進のために必要な基本方針 <p>その他、感染防止対策マニュアル内の病院感染防止の基本事項1) 病院感染対策の骨子 (1) 標準予防策の遵守 (2) 感染経路別予防策の遵守 (3) 産業医科大学病院に関わる教職員の義務などで指針を策定している。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 13 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 1) 平成27年度 病院感染防止委員会13回（臨時委員会1回含む） 2) 院内感染対策の検討及び研究 3) 病院感染の分析及び再発防止策の検討に関すること 4) 病院感染防止のための啓発、教育及び広報に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容：平成27年度 <ul style="list-style-type: none"> 1) 情報共有の必要性と改善の取り組み 2) 病院スタッフ全員が知っておくべき院内感染対策の注意点について 3) 感染制御上の注意点 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) JANIS検査部門、ICU部門、手術部位感染サーベイランス、icu j h a i sのカテーテル関連感染症サーベイランスへ参加しており、来年度からはJANISのICU部門に参加して、VAP、UTI等のサーベイランスを実施する予定。その結果をセーフティーマネージャー連絡会議、感染制御部 Information等で全職員に対して情報共有している。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 感染制御部ニュースの発行にて広報 ② セーフティーマネージャー連絡会議を通じて広報 ③ 委員会を通じて広報 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 手洗い石鹸自動ポンプの順次設置 ② 病院職員の抗体価検査と予防接種の実施（麻疹、水痘、風疹、ムンプス） ③ 病院感染サーベイランスの実施 ④ 感染性廃棄物分別の徹底 ⑤ 抗菌薬適正使用セミナーの開催 ⑥ 地域連携の充実（カンファレンスなど） ⑦ 体調不良者リストによる職員の感染者の早期発見（インフルエンザ流行期） 	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">ハイリスク薬注射薬の適切な使用方法院内での副作用報告の流れ医薬品安全使用のための情報活用医療用麻薬の管理についてWHO方式がん疼痛治療についてインスリン治療のリスクマネジメント当院における薬剤関連インシデント・アクシデントについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 (有・無)業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医薬品業務手順書には、次に掲げる業務に関する事項を記載している。<ul style="list-style-type: none">① 病院等で用いる医薬品の採用・購入② 医薬品の管理③ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤④ 患者に対する与薬や服薬指導⑤ 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い(収集、提供等)⑥ 他施設(病院等、薬局等)との連携 <p>従業者の業務が医薬品業務手順書に基づき行われているかについて、月1回各部署から提出される「医薬品の安全使用のための業務手順チェックリスト」にて、医薬品の適正管理や与薬時における患者確認、6R+Aの遵守等の業務の実施状況を確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">薬剤師による処方箋・注射箋の疑義照会薬剤師による病棟及び外来の月1回院内ラウンドの実施ハイリスク薬の定義と適正使用のための指導と啓蒙	

「医薬品安全使用のための業務手順チェックリスト」の改訂
持参薬の一元管理による効率的な鑑別作業の運用
入院前の服薬状況確認にて、術前休薬の必要な薬剤等の鑑別
薬歴ファイルに基づく化学療法処方監査の徹底
入院・外来化学療法患者に対する注射用抗がん剤の調製と服薬指導

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 75 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 新しい医療機器の導入時の研修 当該医療機器を使用する予定の者に対する研修を行っている。</p> <p>2) 特に安全使用に際して技術の習得が必要と考えられる医療機器に関する研修 以下の医療機器について、年間各2回以上、当該医療機器に携わる医療従事者等の従業者に対し、①医療機器の有効性・安全性に関する事項、②使用方法に関する事項、③保守点検に関する事項、④不具合が発生した場合の対応に関する事項、⑤使用に関して特に法令上遵守すべき事項についての研修を行っている。</p> <p>(1) 人工心肺装置及び補助循環装置 (2) 人工呼吸器 (3) 血液浄化装置 (4) 除細動装置 (5) 閉鎖式保育器 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置 (7) 診療用放射線照射装置</p> <p>3) その他、必要に応じて開催する医療機器に関する研修を行っている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>以下の医療機器について、保守点検を行い、個々の医療機器ごとに①医療機器名、②製造販売業者名、③型式、型番、購入年、④保守点検の記録(年月日、保守点検の概要、保守点検者名)、⑤修理の記録(年月日、修理の概要、修理者名)を記録している。保守点検の実施状況を評価し、必要に応じて医療安全上の助言を行っている。また、保守点検の一連の手順について職員間で相互に確認を行わせ、保守点検の適切な実施の徹底を図っている。</p> <p>1) 人工心肺装置及び補助循環装置 2) 人工呼吸器 3) 血液浄化装置 4) 除細動装置 5) 閉鎖式保育器 6) 診療用高エネルギー放射線発生装置 7) 診療用放射線照射装置</p>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 1) 医療機器の不具合情報や安全性情報等の情報を、日本医療機能評価機構、PMDA、メーカーから収集する。院内発生事例は、院内のインシデント・アクシデント報告により収集する。
- 2) 収集した情報を医療安全定例会議で報告し、院内版の医療安全情報等で周知を行う。また、院内発生事例については、メーカーへ使用状況等の情報を伝えるとともに、医療機器安全性情報につきPMDAへ報告を行う。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療事故などの医療安全上の問題が発生した際に、医療安全管理部門から報告を受け、同部門に指示を行うことを通じて、同部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1) 指名した担当薬剤師に以下の業務を行わせ、定期的に報告を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none">・院内の医薬品の使用状況を確認する(月1回)。・添付文書情報(禁忌等)の改訂、追加等はDIレターにて周知する(月1回程度)。・緊急安全性情報等が発出された場合は直ちに情報収集し、処方医または各診療科に発信する。・適応外使用については、学会ガイドラインや論文等より、処方の必要性や副作用等の安全管理に係る情報を収集する。・未承認医薬品については、PMDAの未承認薬データベースや海外の添付文書等より、情報収集する。 <p>2) 1)の報告を踏まえ、必要に応じて、医薬品の適正使用のための注意喚起情報を院内メールや書面により院内全体に周知する。周知後には、担当薬剤師に書面により周知状況を確認させる。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>1) 指名した担当薬剤師に以下①～③の業務を行わせ、定期的に報告を受ける。</p> <p>① 未承認医薬品の使用に関して</p> <ul style="list-style-type: none">・未承認医薬品を使用する場合は、事前に産業医科大学病院倫理委員会(臨床研究に該当する場合は産業医科大学倫理委員会)において承認を受けることとなっているため、これらの委員会から承認結果の情報を得て、院内使用状況を把握する。 <p>② 適応外使用に関して</p> <ul style="list-style-type: none">・既に倫理委員会等において妥当性等の検討を経ている適応外使用に関しては、委員会から情報を得るなどして、担当薬剤師が院内使用状況を把握する。・上記に該当しない適応外使用を担当薬剤師が把握した場合は、公知申請対象の有無や、社会保険診療報酬支払基金で審査上認められているかについて、確認する。・公知申請対象にあらず、社会保険診療報酬支払基金で審査上認められているものにもあたらない場合には、処方した医師等への疑義照会を実施し、処方の必要性や論文等の根拠、処方の	

妥当性等を確認し、処方変更の提案等を行う。場合によっては、処方した医師に対し、薬事委員会、産業医科大学病院倫理委員会（臨床研究に該当する場合は産業医科大学倫理委員会）のいずれかの承認を経るよう促す。

③ 禁忌に該当する処方に関して

- ・薬剤間の相互作用における禁忌に該当するものは、電子カルテ上のチェック機能で制限されるため、処方できない。薬剤と病名間における禁忌に該当するものについては、電子カルテ上のチェック機能を有しておらず、システム上の制限はかからないが、担当薬剤師が把握に努める。
- ・処方した医師等への疑義照会を実施し、処方の必要性や論文等の根拠、処方の妥当性等を確認し、処方変更の提案等を行う。

2) 1)の報告を踏まえ、必要に応じて、自ら医師等に対する指導等を行い、担当薬剤師に院内全体に情報共有させる。

・担当者の指名の有無（有）

調剤管理科から3名（調剤、注射調剤、薬品情報室）、病棟薬剤科から1名、計4名

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有 無

・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 有 無

・規程の主な内容：

インフォームド・コンセントの基本的な考え方

誰が、何を、誰に対して（同意能力がある場合、ない場合、未成年者の場合）説明するか
説明実施の際に注意すべきこと（多職種同席が必要であることなど）

説明についての記録の仕方について

当院統一書式の説明・同意文書作成のルール

説明・同意文書に記載すべき標準的内容 など

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有 無

・活動の主な内容：

多職種により構成される診療記録管理専門委員会（診療録等の管理に関する責任者が委員長を務める）にて、診療録の記載が適切になされているかの確認を定期的に行い（各委員が毎月2例ずつ）、確認の結果、十分でない事例が認められる場合は、上記委員会から当該部署に対する指導を行っている。当該事例を病院の各部署に通知したり研修で取り上げたりすることは、今後検討していく。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有 無

・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（9）名

うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 4 ）名

うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（ 3 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

・活動の主な内容：

- 1) 院内で発生したインシデント・アクシデント報告を受け、当該事象に関する診療録を確認し、関係者へのヒアリングを行うことにより、当該事象の原因調査・分析を行う。必要に応じて、患者や家族への説明会にも立ち会う。分析結果に基づき改善策の立案、当該部署への指導を行うとともに、院内全体への必要な周知を行う。また、改善策の実施状況について確認を行う。
- 2) 医療安全管理部定例会議（毎週1回）において上記について審議し、その方針に基づき、医療安全管理委員会（定期は毎月1回、臨時開催もあり）で報告・審議を行う。
- 3) 医療安全管理委員会、同委員会下部組織のワーキンググループ会議、MMカンファレンス、事例検証会、医療事故調査制度該当性判定会議、Ai 結果検討会等を運営する。
- 4) 医療安全に関する研修、講演会等を実施することにより、従業者の医療安全に関する意識を向上させる。なお、意識の向上の状況を確認するため、全職員の医療安全に関する研修の受講状況等のモニタリングを平時から行う。

※ 平成28年改正省令による改正後の医療法施行規則9条の23第1項第6号ホに規定する「医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握」については、計画書の提出あり。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 計画書の提出あり

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・規程の主な内容：

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 計画書の提出あり

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・ 規程の主な内容：

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況 計画書の提出あり 有・無

・ 監査委員会の開催状況：年 回

・ 活動の主な内容：

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）

・ 委員名簿の公表の有無（有・無）

・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 計画書の提出あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 件 <p>※報告が必要な事象に関する基準は策定しており、医療安全対策マニュアルに掲載して院内に周知している。10月1日より運用を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
<p>⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 計画書の提出あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）・無） ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無） ・技術的助言の実施状況
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p>病院における患者、家族等からの相談、苦情、意見、要望等に対して、迅速かつ適切に対応するため、平成28年改正前医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の23第3号の規定に基づき、平成15年4月1日に患者相談窓口を設置した。相談窓口は医療支援課地域連携・患者相談係が担当し、医療支援課地域連携・患者相談係には、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員を配置し、責任者は医療支援課長をもってあてている。また、窓口の受付時間は病院外来診療日の午前8時30分から午後5時までとしている。患者相談窓口は相談等を受け付け、相談等の内容のうち窓口で対応できないものについては関係する部署へ取り次ぐとともに、当該部署からの回答、対応を得た後に相談者へ回答を行っている。また、相談等の内容で病院長に報告が必要な事例については、適宜その対応状況等を病院長に報告を行っており、さらに、医療安全管理部、病院管理課・医療安全室と相談等の情報を共有するため、月2回、隔週ごとにミーティングを実施し、必要に応じて医療事故再発防止、安全対策の見直し及び病院運営改善等に活用することとしている。</p>
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) 	
⑭ 職員研修の実施状況	計画書の提出あり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施状況 	
⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	計画書の提出あり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施状況 	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益社団法人日本医療機能評価機構 2015年4月25日～2020年4月24日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 (現状) 住民及び患者が当大学病院を適切に選択できるように以下の方法で情報発信を行っている。 1 病院ホームページを通じて、各診療科が担当する疾患の診断及び治療方法等の紹介、先進医療の紹介、がん診療実績の紹介。 2 がんに対する検診や治療方法などについて、専門医による講演を行う市民公開講座の開催。 3 新聞紙面での手術等の診療実績の掲載。 4 テレビ等への出演による治療方法の説明。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 (現状) 1 がんセンターにおいて、集学的治療の実施及びがん相談支援等を行い、また、緩和ケアセンターにおいて緩和医療の提供を行っている。 2 総合周産期母子医療センターにおいて、ハイリスク妊娠管理、大量出血、DICなど集学的治療が必要な症例に対して集中的に治療を行っている。 3 血友病センターにおいて、個々の患者様が抱える問題を多面的にとらえ、テーラーメイドの医療を提供するために内科、小児科、整形外科、リハビリテーション科並びに歯科口腔外科の担当医による他科連携での診察を毎月1回第1水曜日に実施している。 4 脳卒中センターにおいて、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科並びに救急科を含めた診療科が、急性期医療を適切かつ効率的に提供し高度で包括的なチーム医療を行っている。 5 呼吸器病センターにおいて、呼吸器・胸部外科、呼吸器内科、放射線科の各領域の専門医が合同で診断および治療が行える体制をとり、集学的治療を行っている。 6 四肢外傷センターにおいて、整形外科、救急科、放射線科、リハビリテーション科の各領域の専門医が、合同で診断および治療が行える体制をとり、多発外傷に対する治療処理と、全身・局所状態を確認しながらの段階的な四肢外傷治療を行っている。	